



▲谷汲会場の様子

9月13日(土)から16日(火)までの4日間に、町内21会場で、町内在住77歳以上の方を対象に「平成26年度揖斐川町敬老会」が開催されました。1620人の参加があった敬老会は、長年にわたり社会に貢献されてきた高齢者の皆様に敬愛し、長寿をお祝いする目的で行われています。宗宮町長は式典で「揖斐川町の歴史・伝統・文化を今日に受け継いでこられた皆様のご尽力に心より感謝しています。皆様の永年の知識と経験を今後も生かしていただき、いつまでもお元気でいてください」と式辞を述べました。

各会場では、式典のほか、地元の園児や文化サークル団体などによる多彩な催しが行われ、参加者の笑顔で溢れていました。

揖斐川町敬老会

～各地域で長寿をお祝い～



▲舞殿で行われたコンサートの様子

9月13日(土)、「第5回芸能の夕べ・舞殿コンサート」が三輪神社の境内で開催されました。

このコンサートは、町の中心市街地の活性化を目指す地元的女性らからなる実行委員会の主催で毎年開催されています。夕暮れの境内の雰囲気と伝統楽器が奏でる音色が人気で毎年多くの人が訪れています。

今回は、二胡奏者の汪成さんと楊琴の成燕娟さん、旧徳山村出身の現代津軽三味線奏者の徳山弦泉さんと徳山真泉さん、それにヴァイオリニストの浅野未希さんが出演しました。舞殿で行われたコンサートでは、境内に心地よい音色が響き渡り観客を魅了していました。

第5回芸能の夕べ

～心地よい音色で観客を魅了～



▲坂本神の踊り

農作物の豊作などを祈願する踊りが、白檜や坂内地域で披露されました。

9月14日(日)には、およそ800年の歴史がある白檜踊りが白檜神社(ふれあい伝承館)ほかで披露されました。

9月20日(土)には、農作物の収穫に感謝し、雨乞いを祈願する踊りとしてじまった川上ほうろく踊りが坂内川上地区の薬師堂や八幡神社で披露されました。

9月23日(火)には、坂内坂本地区で秋の大祭が行われ、坂本神の踊りで披露されました。

神の踊りは、400年ほど前より伝わる芸能として受け継がれており、五穀豊穡と家内安全を願い踊られています。

地域に親しまれ守り継がれる伝統芸能の力強い踊りが見物客を魅了していました。

地域に伝わる踊りを披露

～勇壮な舞いで魅了～



▲おもてなしステーションで休憩する参加者

9月27日(土)、西濃の2市9町を自転車でめぐる「ツール・ド・西美濃2014」が大垣市浅中の浅中公園を発着点に行われ、全国からの参加者500人が秋の西濃を駆け抜けました。

近年の自転車ブームを西濃地域の活性化や情報発信につなげようと大垣商工会議所や各市町などが企画。コース全長は122kmで高低差は約200メートル。コース途中には、各市町が設けた「おもてなしステーション」が6か所あり、特産品などが振る舞われました。

町営谷汲門前駐車場の「おもてなしステーション」ではジビエカレーやジビエコロッケなどが提供され参加者を喜ばせていました。

ツール・ド・西美濃2014

～自転車500台が快走～

春日貝原棚田で稲刈り体験

「収穫の喜びを伝えたい」

9月29日(月)、ぎふの棚田21選に認定されている春日美東の貝原棚田で春日小学校の児童が稲刈りを体験しました。

この取り組みは、児童らが自然に触れ、先人の知恵を学ぶ里山体験学習の一環で毎年行われています。

晴天となったこの日は春日小学校の児童31人が参加し、保存会の人に教わりながら実った稲を鎌で丁寧に取り取りました。

米(稲)は収穫された後、天日干しされ、10月に脱穀を行います。お米は、12月のしめ縄作りでおにぎりにして振る舞われるようです。実りの秋を実感した児童からは笑顔があふれていました。



▲稲を刈り取る児童

春日の沢あざみが味の箱舟に認定

「特産品世界へ発信」

春日地域で生産されている「沢あざみ」が、スローフードインターナショナル(本部・イタリア)の「味の箱舟」に認定されました。

岐阜県での認定は、美濃加茂市の堂上峰屋柿に次いで2番目となり、全国では、32品目が認定されています。

「味の箱舟」は、地域在来の希少な食材を守る活動から生まれたプロジェクトで、認定により、世界的なリストに載ることから認知度が向上し販路の拡大にも期待ができます。

10月1日(水)には、揖斐川町役場で認定書の交付式が行われました。認定を受けた生産者代表の森榮久さん(春日沢あざみクラブ)は、「町の特産品が世界に出る喜びと誇りを感じる。生産振興を図りたい」と話しました。



▲認定を受けた沢あざみの生産者の森さん(中央)

LED植物栽培装置の寄贈

「葉草 室内栽培へ」

10月2日(木)、揖斐川町に工場がある東神電気(大阪市)からLED植物栽培装置の寄贈がありました。

同社が開発した装置は、通常のLEDの光より太陽光に近く、植物の成長に適した光の波長であるため、露地栽培やハウス栽培より成長が早く、通年の無農薬栽培が可能です。

この日は、設置したさすががモリモリ村リフレッシュ館で贈呈式があり、寺岡龍彦社長は「地域のために役立ててほしい」と宗宮町長に目録を手渡しました。

宗宮町長は「山菜や春日産の葉草とからめた特産野菜ができるといい。研究したい」と意欲を語りました。

寄贈を受けた装置3台では、水菜などの葉野菜や特産の沢あざみが栽培されています。



▲贈呈式 寺岡社長(左) 宗宮町長(右)

セントジョージマラソン

国際交流事業

10月1日(水)から10月8日(水)まで、アメリカ合衆国ユタ州セントジョージ市とのマラソン交流事業が行われました。昨年のいびがわマラソンで優秀な成績を収めたランナーの皆さんが、10月4日(土)のセントジョージマラソンに参加し、完走されました。

成績は次のとおりです。(敬称略)

山中孝一郎 2時間40分09秒 (男子フル25位)

田村あすみ 2時間57分54秒 (女子フル17位)

牧村 英充 3時間18分00秒 (男子フル407位)

山本千恵子 4時間26分03秒 (女子フル1413位)



▲7千人が駆けつけたセントジョージマラソン